

「第1回省エネルギー行動研究会シンポジウム」参加者アンケート結果

1. 調査概要

調査方法	参加者に対しアンケート調査票を配布、シンポジウム終了時に回収
調査期間	2014年2月14日（金）
調査目的	省エネルギー行動研究会の今後の活動の参考にする
調査対象	シンポジウム参加者180名
回収数（回収率）	94件（52%）

2. 集計結果

(1) 本日のシンポジウムはいかがでしたか？

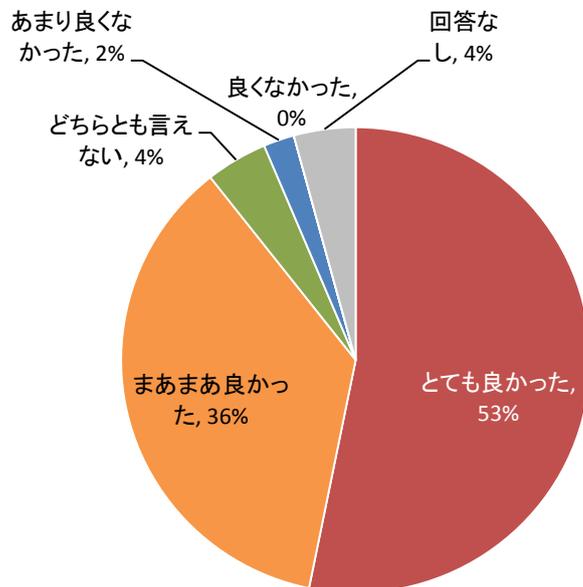


図1 シンポジウムの全体的な満足度

(2) 本日のシンポジウムで特に興味深かったものはどれですか？（複数回答可）

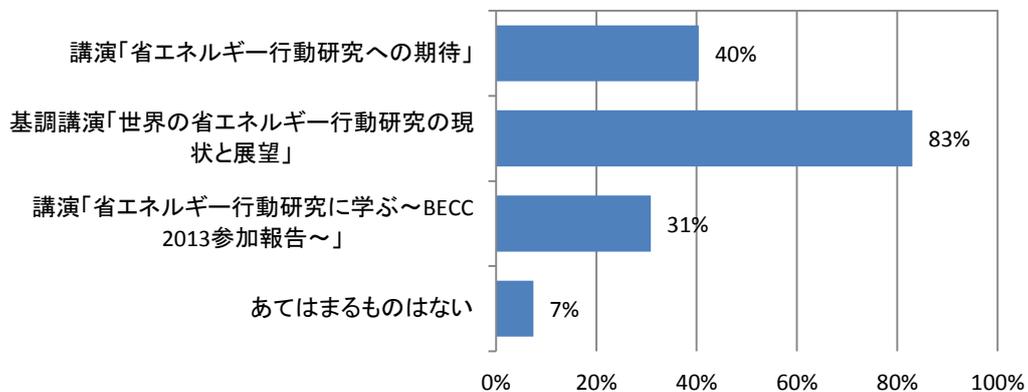


図2 講演内容別の満足度

(3) 今後、9月に開催予定の「BECC JAPAN 2014」にも参加したいと思いますか？

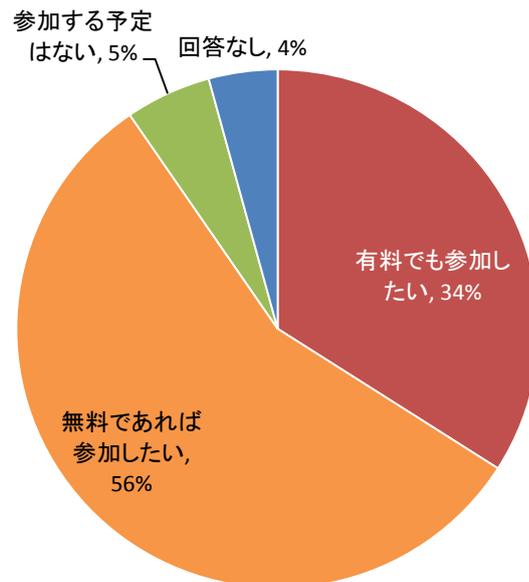


図 3 「BECC JAPAN 2014」への参加意向

(4) あなたの業種をお答えください。

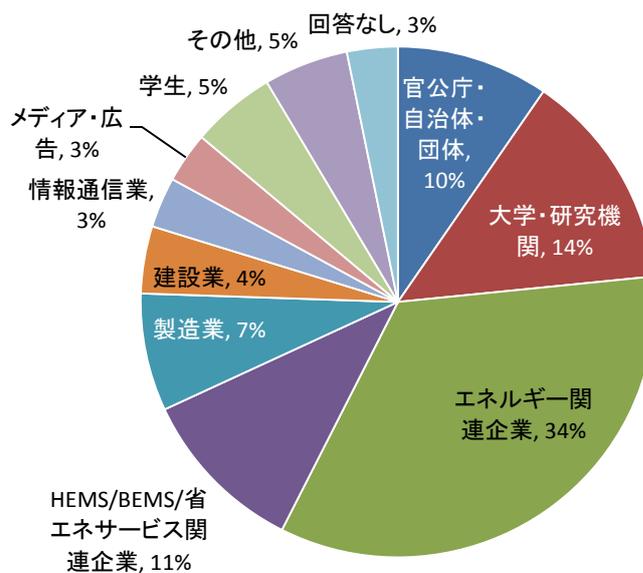


図 4 回答者の業種

(5) 本日のシンポジウムのご感想や、今後取り上げて欲しい議題など、ご意見・ご感想等ございましたら、お書きください。

1) シンポジウムの感想

- ・ 省エネ行動の誘発は、人々・地域・国々の環境(生活、民度、立地)を理解して行うことが大切であり、同一的な行動要素を情報提供することは必要だが、その効果は様々であることを再確認しました。(官公庁・自治体・団体)
- ・ 天候のため、時間が短縮されたのが残念なくらい有意義なお話をうかがえました(官公庁・自治体・団体)
- ・ スウィニー先生の話に興味を持ちました。9月の BECC JAPAN にもぜひ参加したい(官公庁・自治体・団体)
- ・ 中上会長の話をもう少し聞きたかった(官公庁・自治体・団体)
- ・ いつも中上先生のお話は分かりやすくありがたいです。もう少しお時間を長く設けて頂いてお聞きしたかったです。スウィニー先生のお話が具体的でわかりやすくとてもよかったです。素敵なお方でした。通訳の方にも感謝します。前先生はせつかくのご報告時間が少なく残念でした。若い川島氏のレポートもお聞きできてよかったです。雪の中、事務局の皆様もお疲れ様でした。ありがとうございました。(官公庁・自治体・団体)
- ・ 雪で短くなってしまったのは残念です。スウィニー先生の講演ですが、同時通訳のシステムにすれば、時間が短縮できたのではないのでしょうか。(大学・研究機関)
- ・ 省エネ行動に対象を絞ったアプローチ、大変興味深いです。運営とても手際よくて素晴らしかったです。どうもありがとうございました。(大学・研究機関)
- ・ ありがとうございました(大学・研究機関)
- ・ 前先生:時間が足りなかった。もっと聞きたい。(エネルギー関連企業)
- ・ とても興味深い内容でした。ありがとうございました。(エネルギー関連企業)
- ・ 通訳の方がいて非常に助かりました。(HEMS/BEMS/省エネサービス関連企業)
- ・ 雪でかけ足だったのが残念(製造業)
- ・ 私どもで運営している web の運営についてヒントとなるメッセージをスウィニー先生にたくさんいただきました。ありがとうございました。Social motivation に加え Family happiness motivation も重要とっております。また、省エネに伴う、co-benefits こそユーザー価値なのではと感じております(建設業)
- ・ 興味深い内容でした(メディア・広告)
- ・ 大変貴重なご講演をうかがうことができ、有意義な時間となりました。(学生)
- ・ 研究結果などがあればもっとよかったように感じます。(学生)
- ・ 以前から関心があった内容について知ることができ非常に有意義でした。日本での研究が進み、実際の導入につながることを期待します(その他)
- ・ 会社の電気代を減らす、ただし設備投資はできない、社員一人ひとりがいかに意識をもって節電を行えばよいかを考えています。人の心理を含めとてもいいヒントを頂けたと思い今後活用できると感じました。(その他)
- ・ 様々な層(セグメント)に応じたアプローチの大切さ、続けて発信する大切さ、どこから、どのように、など、ためになる話を聞くことができました。ぜひ、実効を伴う活動に市民の自発的動きにつながる会へと向かっていってほしいです(その他)

2) 今後取り上げて欲しい議題

- ・ 省エネ行動を促す、家庭への情報提供手段(指標×効果、ゲーム性×効果など)、工夫(官公庁・自治体・団体)
- ・ 省エネ行動誘発の教育の在り方について(官公庁・自治体・団体)
- ・ 省エネ行動の定着化について(官公庁・自治体・団体)
- ・ 行動研究会の基本戦略はどちらか、①日本人の文化は管理する/されることを好み、その方が安心である、②独自の情報により、独自の行動を採ることは遠慮する傾向にある。①をベースに考えていくか、様々な方策で②に導いていくか。3.11 後の夏のエネルギー削減は①の証左でしょう。(大学・研究機関)
- ・ 食と環境の分野もぜひお願いします(大学・研究機関)
- ・ 地方なので東京にくだけでお金がかかる。映像で地方開催してもいい。それなら有料でもいい。動画やPCで見られるようにでも。(エネルギー関連企業)
- ・ このジャンルの知識が少ないので最新の研究内容の紹介を行って頂きたい(エネルギー関連企業)
- ・ ベースラインに対する考え方、モチベーション継続のための工夫(エネルギー関連企業)
- ・ セグメンテーション事例、日本で展開する可能性など(エネルギー関連企業)
- ・ 節電・節約に関する内容(エネルギー関連企業)
- ・ 省エネと関連分野(くらし、買い物、エンターテイメント、仕事・・・)との効果的な連携について(HEMS/BEMS/省エネサービス関連企業)
- ・ 省エネ行動における人間的要素理論の深耕を(HEMS/BEMS/省エネサービス関連企業)
- ・ さらに具体的な研究内容の解説があれば興味深いです(建設業)
- ・ 日本のスマートハウスの課題・欠点(建設業)
- ・ 今後も、行動変容の動向について紹介していただきたいです(情報通信業)
- ・ ゲーミフィケーション、行動経済学の観点(メディア・広告)
- ・ 省エネを行うことの事務所・工場・店舗・家庭における電気、ガスなどエネルギー使用の適正化・適正值はどこにあるのかというのは議題としてどうでしょうか(その他)